

2021 年 10 月 13 日

2021 年 9 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキスト関連を中心に動きがあったが、全体的には小ロット物件が主で大口物件が減少しており前年を下回った。前々年比でも 82.3%と厳しい状況となっている。

巻取は損保関連で動きが見られた一方で、金融・チラシ関連が低調であり前年を大幅に下回った。前々年比でも 62.0%であり、受注量の減少に歯止めがかからない状況となっている。

（前年比 平判 93.6% 巻取 83.6%）

再生紙平判は指定解除物件が目立ち森林認証紙への変更が増加し、前年を大幅に下回った。前々年比でも 50.6%で厳しい状況となっている。

巻取は年金関連の大口物件の動きも見られ前年を上回った。ただ、前々年比 67.7%、再生紙全体でも 56.7%となっている。

（前年比 再生上質平判 66.4% 再生上質巻取 101.3% 再生上質計 77.7%）

（前年比 印刷用紙 A 91.8%）

<A2 コート>

緊急事態宣言下、平判は金融、製薬、学参関連のカタログ、パンフレットで動きがあった。巻取は食品デリバリー、通販向けチラシで動きがあった。

しかしながら、各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており、各種イベントの中止、延期等で印刷物案件全般の需要は大きく減少した。（前々年比 A2 コート計 70.9%）

（前年比 平判 93.4% 巻取 85.7% 全体 91.7%）

<A3 コート>

学習塾、食品スーパー、ドラッグストアの定期的なチラシ案件で動きがあり、巻取は前年を大幅に上回った。（前々年比 A3 コート計 84.4%）

（前年比 平判 72.8% 巻取 118.8% 全体 101.4%）

<ノーカーボン紙>

平判、巻取とも旅行関連、生損保関連のスポット案件の動きも見られず、一般の動きも弱い。特に巻取に関しては前年を大きく下回った。

（前年比 平判 95.6% 巻取 76.8%）

<上質フォーム>

自治体毎の商品券、納付書等一般の動きも顕著に推移し、昨年のコロナ禍の落ち込みの影響もあり前年を上回った。

（前年比 109.9%）

<包装用紙>

特殊両更は官庁関連、金融機関の封筒に動きが見られ、落ち込みが大きかった前年から大幅に回復した。

(前年比 122.7%)

軽包装は生花店向け包装用途と印刷会社向け雑包装用途に昨年比で回復傾向が見られ、前年を僅かに上回った。

(前年比 102.6%)

片艶晒は手提げ、角底袋などは相変わらずだが、包装紙と一部生保関連の封筒に動きが見られ前年を僅かに上回った。

(前年比 104.0%)

両更晒は金融機関、通信会社向け封筒に一部動きが見られたが、緊急事態宣言の継続に起因して手提げ袋用途が伸び悩み前年を下回った。

(前年比 97.2%)

色クラフトは政府系金融機関、通信会社向けの封筒に動きがあったものの、全体を押し上げるまでには至らず前年を僅かに下回った。

(前年比 98.0%)

純白ロールはお彼岸の生花向けに動きが見られ、前年並みの水準となった。

(前年比 100.2%)

包装紙全体では 98.5%と前年を下回った。

<板紙>

コートボールは生活雑貨、化粧品関連が上向くものの、土産向けは依然低調であった。

特板はテイクアウト需要が安定、和洋菓子向けも堅調であった。

チップボールの出版向けは若干動きがあるものの、梱包材、パッケージ向けは依然低調であった。

バレンタイン需要は前年並みであった。緊急事態宣言の影響を受け低調であるが、前年の販売が悪く全体的には前年を上回った。

(前年比 108.5%)